

# 琉球大学学術リポジトリ

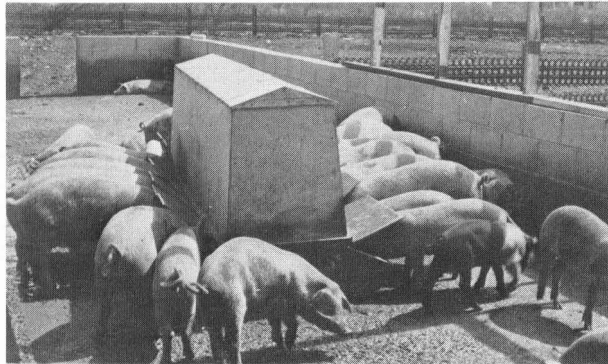
<写真特集>ハワイの養豚場　－沖縄系事業家をめぐって－

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学農家政学部 公開日: 2011-06-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 古謝, 瑞幸 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/20665">http://hdl.handle.net/20.500.12000/20665</a>

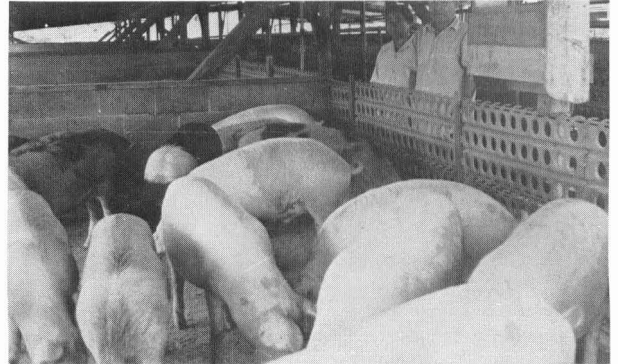
## 〈写真特集〉 ハワイの養豚業 ……沖縄系事業家をめぐって……

養鶏業と共に目覚しく発展しているのは養豚業である。 ハワイの養豚界は沖縄系事業家の独占といっても過言ではないだろう。 養鶏家の伊芸長吉氏（宜野座村出身一世）がハワイの養鶏王ならば、金城喜満氏（北谷村出身一世）と知念樽氏（嘉手納村出身一世）はハワイの養豚王である。 両氏はいずれも常時2,000頭を上回る養豚経営をしたこの面の大物として名声が高い。 近年借地契約期限がきれて一切を処分したばかりである。 一世は殆んど引退して二世の時代になっているが、二世の活躍も先輩に劣らず勢力が強い。 例えば外間養豚場はぐんぐん成長して最近2,000頭に伸び上がってきた。 その他の人達も殆んど500~1,500頭を飼っている。

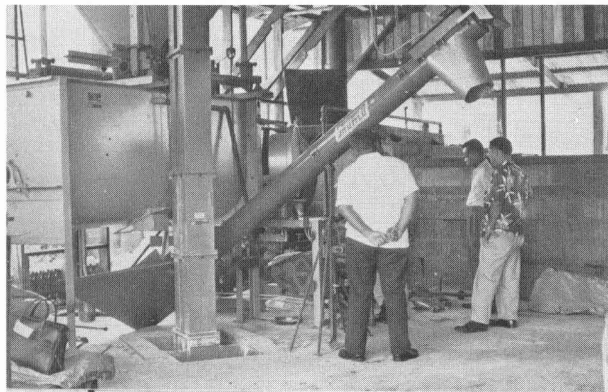
「ハワイの沖縄系移民が養豚事業に成功しているのは、郷里沖縄の農家がみんな豚を飼っているの、その優れた養豚技術と経験が影響したためであろう」とあるハワイ大学の専門家は語っていたが、一つはそのせいかも知れない。 （古 謝 瑞 幸）



↑粉餌を与える自動給餌器と子豚 豚舎のむこうは運動場  
（仲田岩松氏の養豚場）



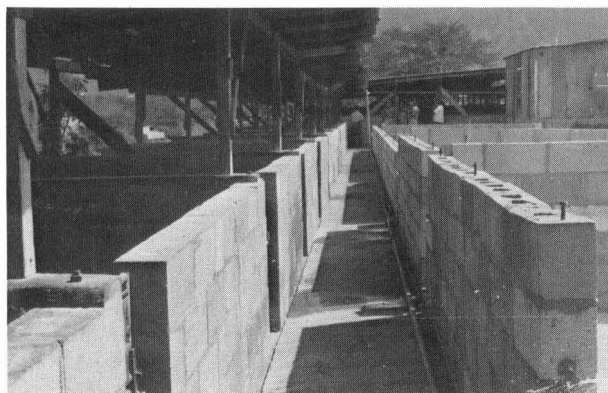
↑ハワイの豚はハンプシャー種とヨークシャー種が主体  
（大城徳造養豚場にて）



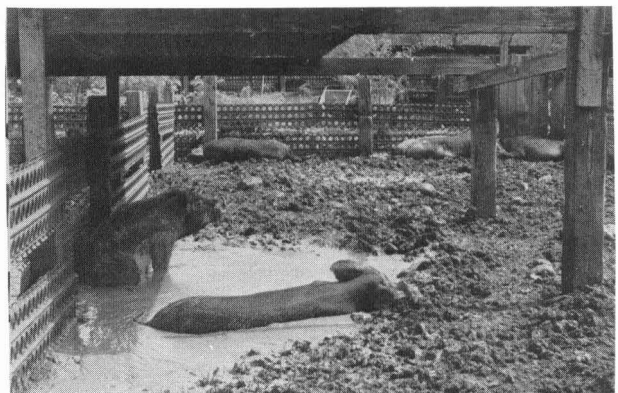
↑糖蜜と粉餌を混合する機械（大城政光氏の農場にて）



↑現地車やホノルルのレストランの残飯は養豚業を興す大きな資源



↑専用の繁殖豚房（右側は未完成）（大城養豚場にて）



↑暑いので運動場の豚はたえず日陰と水たまりを探し求める これは水浴ならぬ泥浴をする母豚たち